

第13回

伊予銀行決算説明会
&
特別講演会



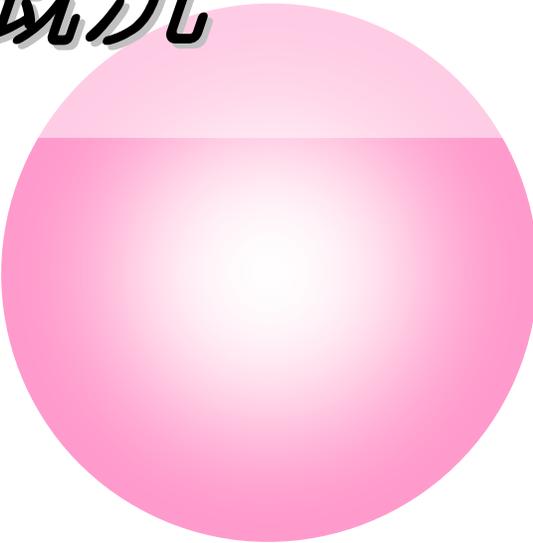
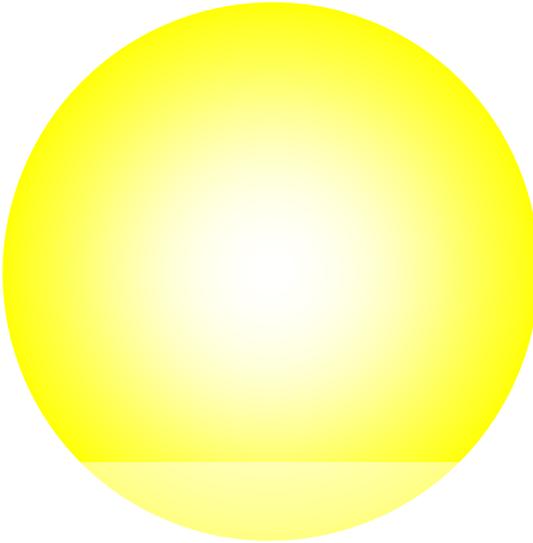
Challenge & Smile

新しい力が、明日をつくる。クルム伊達公子



伊予銀行





伊予銀行の概況

伊予銀行のプロフィール

本店所在地	愛媛県松山市
創業	明治11年3月15日(第二十九国立銀行)
資本金	209億円(発行済株式総数323,775千株)
従業員数	役員22人、職員2,985人(臨時を除く)
拠点数	国内151か店(出張所7を含む)、海外1か店(香港)
	海外駐在員事務所3か所(ニューヨーク、上海、シンガポール)
外部格付	AA-: 格付投資情報センター(R&I)
	A: スタンダード&プアーズ(S&P)
	AA: 日本格付研究所(JCR)

連結総自己資本比率(国際統一基準)	13.00%
連結子会社数	10社
連結従業員数(臨時を除く)	3,277人

<平成25年3月31日現在>

店舗ネットワーク

- 瀬戸内圏域を中心に、**13都府県**に店舗を配置しております。
- 瀬戸内に根ざした **地方銀行第1位の広域店舗ネットワーク**を構築しております。

主な県外店舗の出店時期

M42 臼杵(大分県)、T8 仁方(現:呉 広島県)
S22 高松(香川県)・高知・大分、S25 広島
S27 大阪、S29 東京、S33 徳島、
S38 北九州(福岡県)、S39 岡山、
S40 名古屋(愛知県)、S41 神戸(兵庫県)
S46 福岡、S54 徳山(山口県)

店舗数
国内151か店
海外1か店

中国地区 10か店

岡山県

兵庫県

近畿地区 5か店

広島県

香川県

大阪府

山口県

徳島県

福岡県

愛媛県内
118か店

愛媛県以外の
四国地区 7か店

九州地区 8か店

東海地区 1か店
東京地区 2か店

大分県

高知県

海外 1か店
駐在員事務所3か所

瀬戸内海周辺では11府県

(平成25年6月30日現在)

(注)愛媛県内店舗数にインターネット支店を含めております。



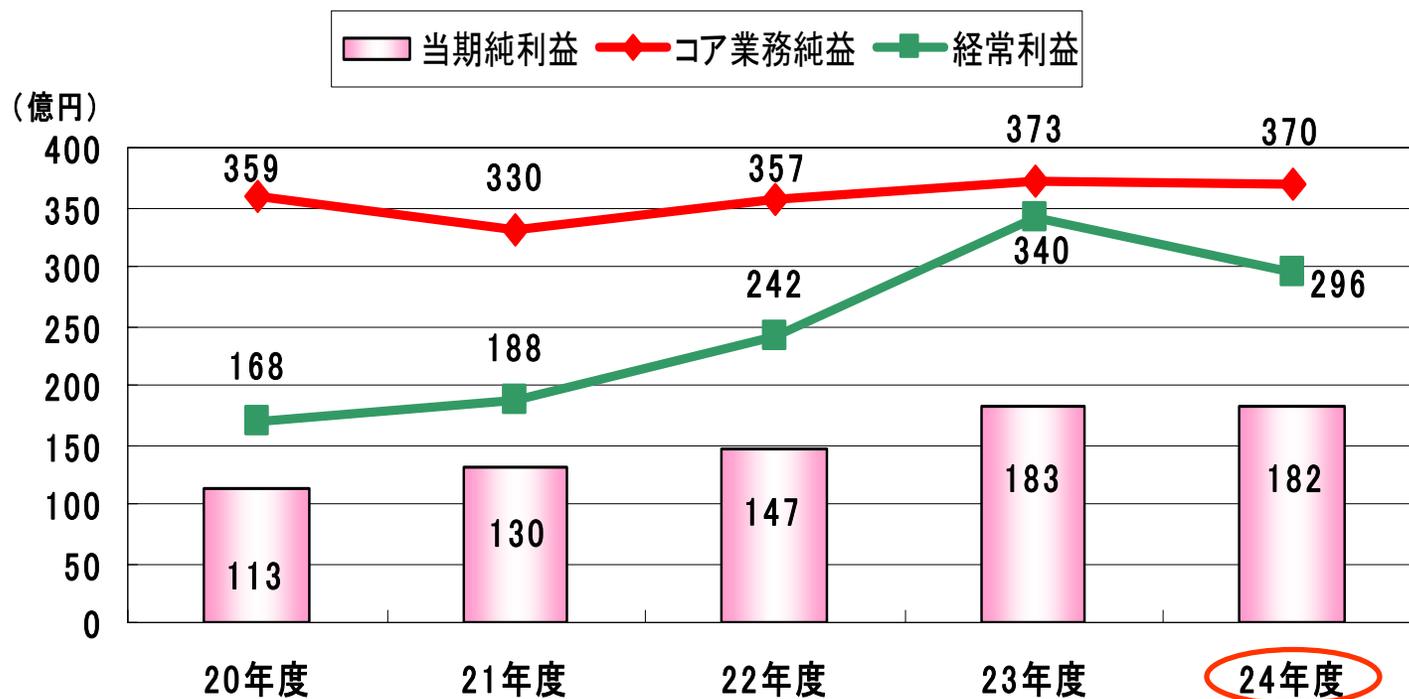
伊予銀行

平成24年度決算の状況

損益の状況

- コア業務純益は、金利低下により運用利回りが低下しましたが、貸出金および有価証券の運用増強により、前年度並みの370億円となりました。
- 当期純利益は、每期安定した利益水準を確保しております。

<コア業務純益・経常利益・当期純利益の推移>



「コア業務純益」とは？

一般企業の『営業利益』に相当する指標であり、銀行の基礎的な収益力を示します。

預金等・貸出金・預り資産残高の状況

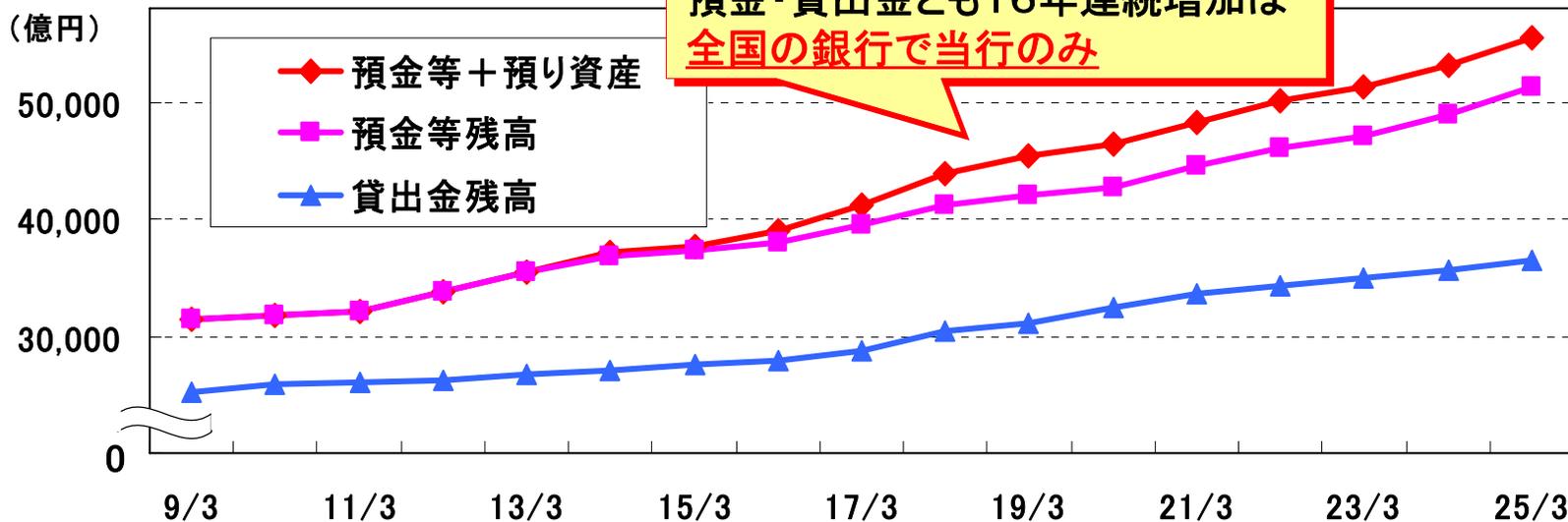
● 経済環境が厳しい中で、「預金等・貸出金・預り資産」は引き続き増加しております。

(単位: 億円)

	23/3末	24/3末	25/3末	前年度比
預金等	47,109	49,002	51,318	+2,316
うち個人預金	30,768	31,465	32,066	+601
預り資産残高(注)	4,110	4,128	4,221	+93
預金等+預り資産	51,219	53,131	55,540	+2,409
「いよぎん証券」残高	-	-	201	201
貸出金	34,878	35,590	36,490	+900
うち個人融資	8,895	8,957	9,083	+126

目標を上回る
スタート

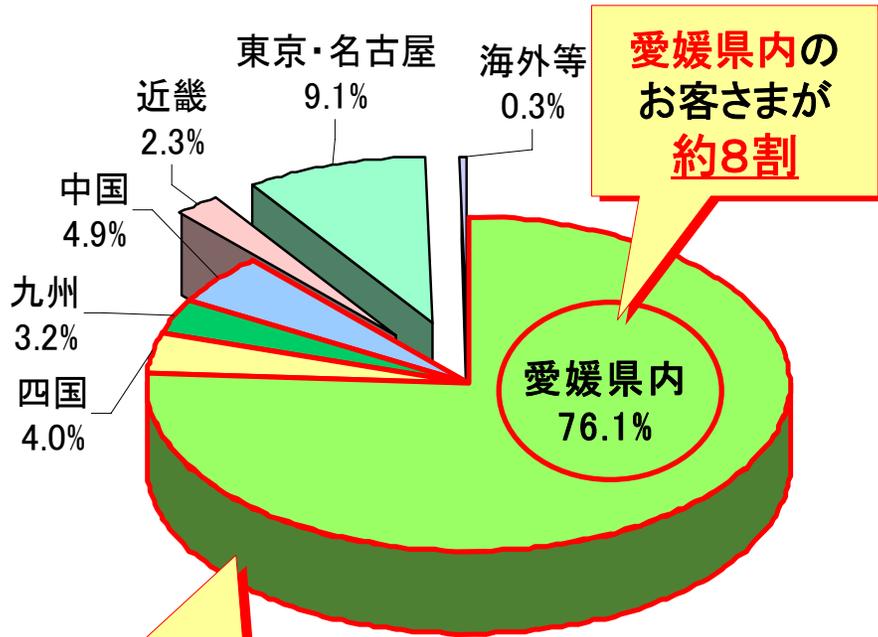
(注) 預り資産残高…国債、投資信託、保険の各残高の合計。22/3末より金融商品仲介による残高を含む。



預金等の状況

● 「預金等」残高は、**5兆1,318億円（前年度比+2,316億円）**となりました。

<当行預金等残高 地域別構成比(25/3末)>

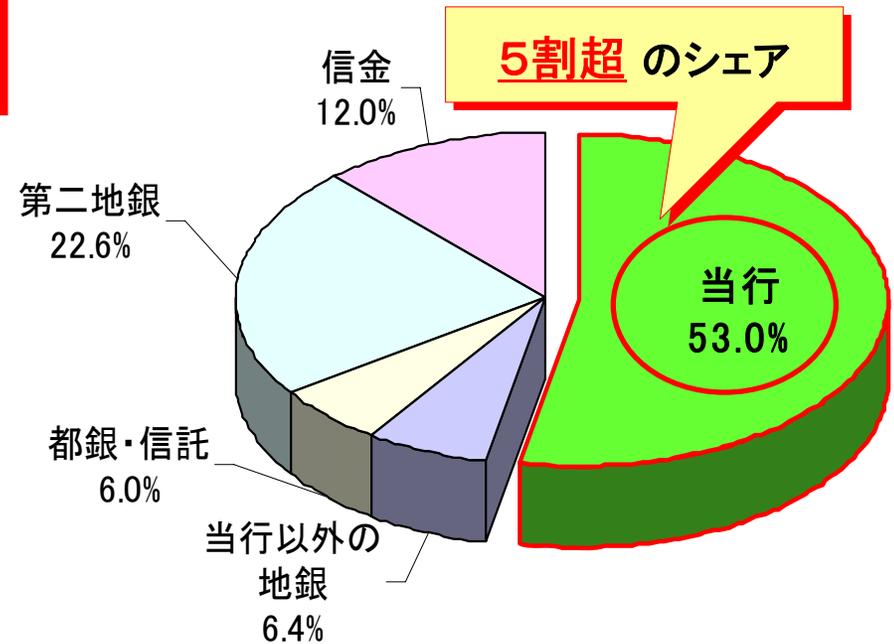


愛媛県内のお客さまが約8割

近畿、東京・名古屋、海外を除く瀬戸内圏域では約9割

<愛媛県内預金等残高 当行シェア(25/3末)>

(注)銀行・信用金庫でのシェア



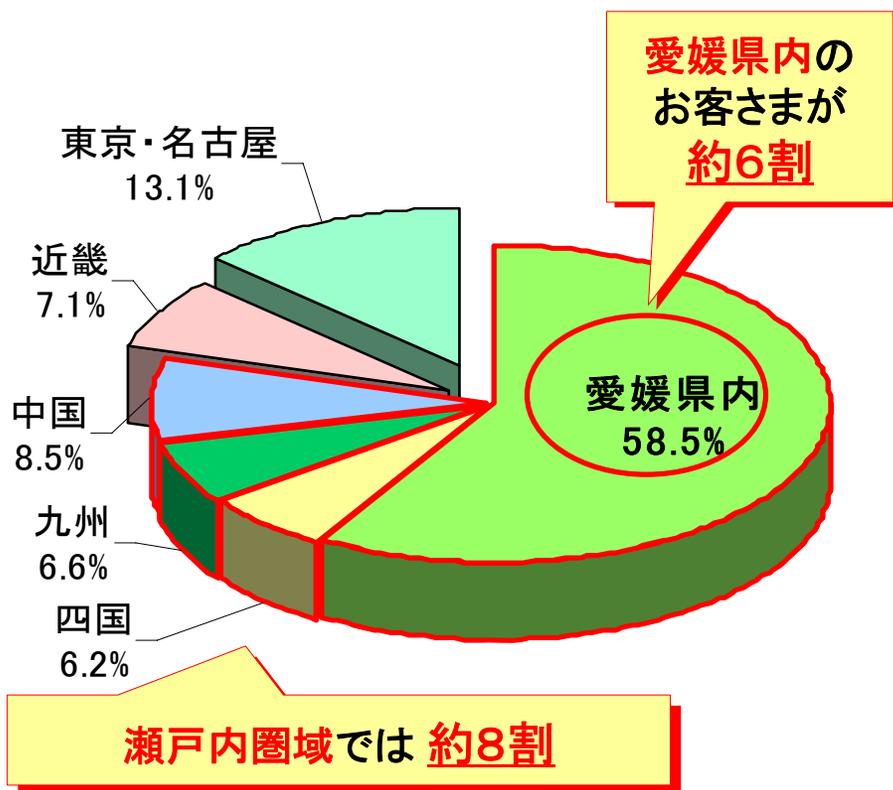
5割超のシェア

当行 53.0%

貸出金の状況

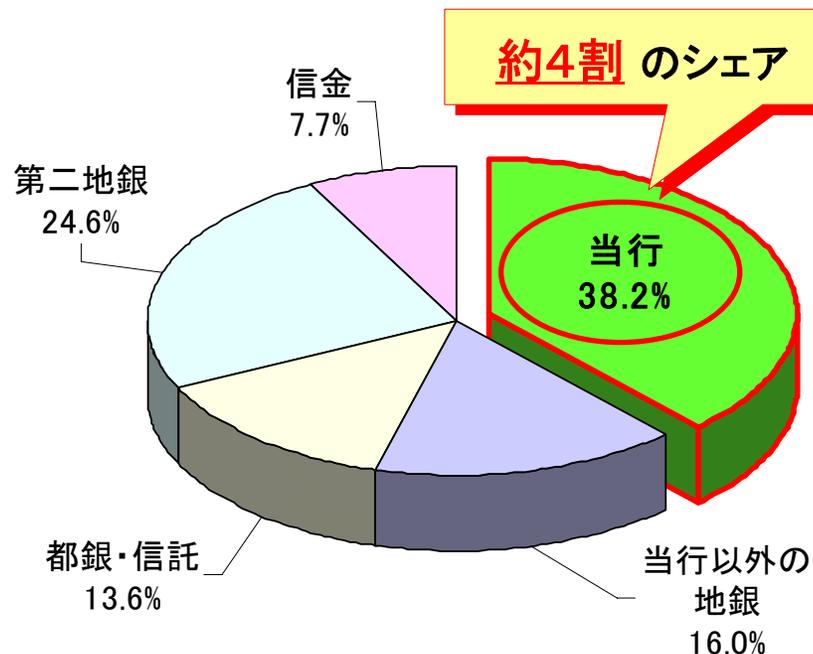
● 「貸出金」残高は、3兆6,490億円（前年度比+900億円）となりました。

＜当行貸出金残高 地域別構成比(25/3末)＞



＜愛媛県内貸出金残高 当行シェア(25/3末)＞

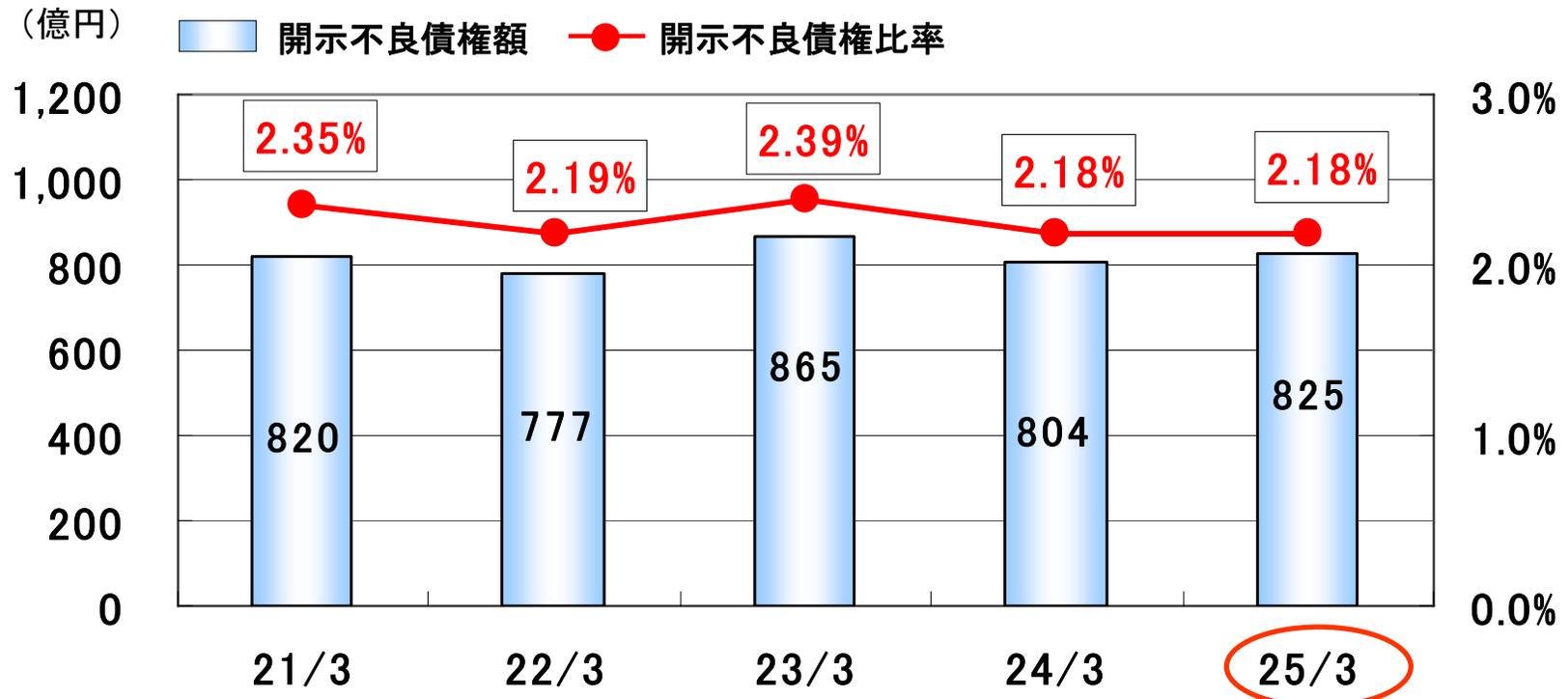
(注) 銀行・信用金庫でのシェア



開示不良債権の状況

- 健全性の目安となる「開示不良債権比率」は、**2.18%** と **引き続き低い水準を維持**しております。(地方銀行平均 3.04%)
- 経営改善へのご支援に努め、不良債権の削減を目指します。

<開示不良債権額・比率推移>



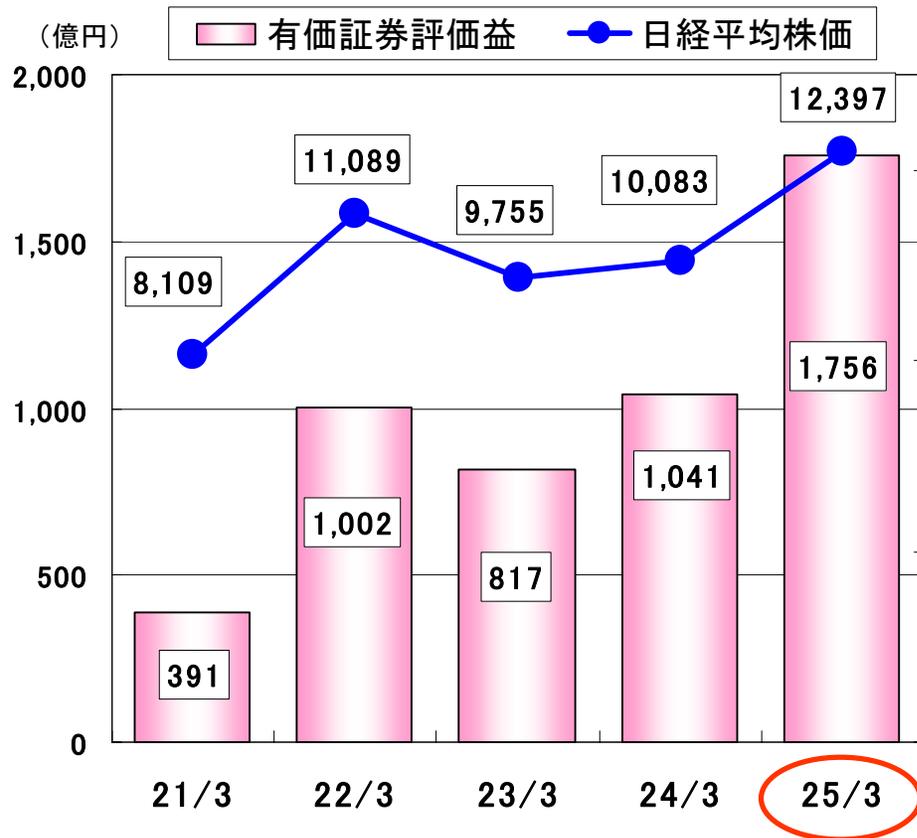
「開示不良債権」とは？

金融再生法により、一定の基準に基づき、金額の公表が義務付けられている債権です。

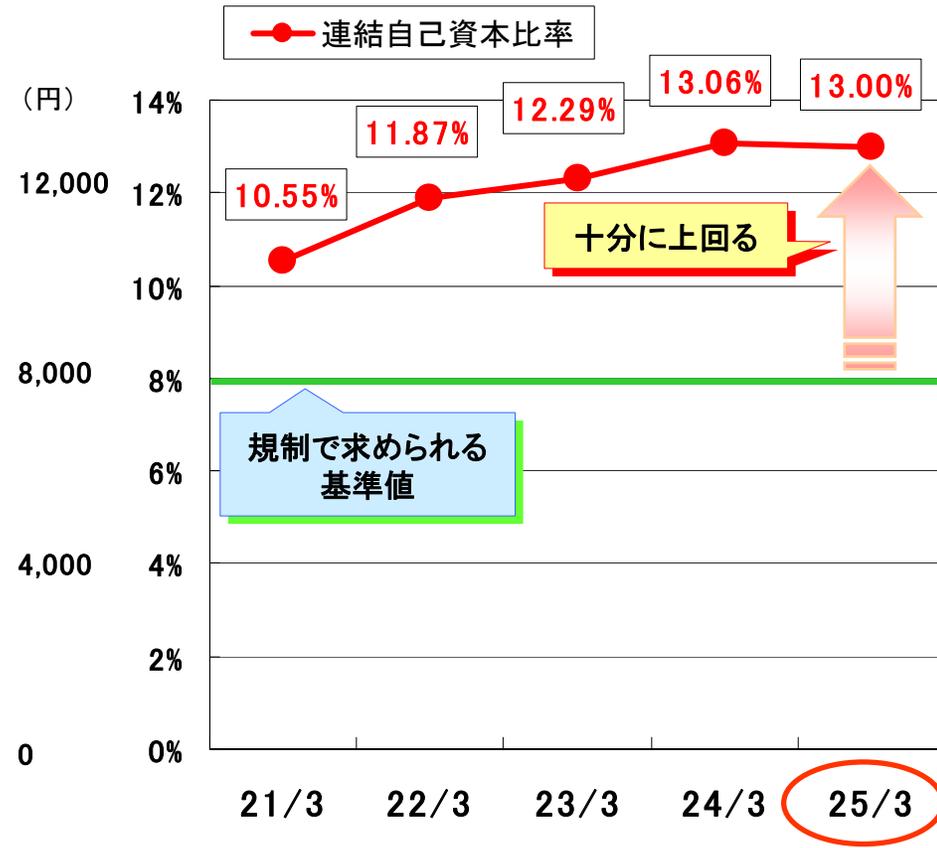
有価証券評価益 と 自己資本比率の状況

- 「有価証券評価益」は **1,756億円**と地銀トップクラス を維持しております。
- 「連結自己資本比率」も **13.00%**と高水準で、健全性は十分です。

＜有価証券評価損益(単体)の推移＞



＜連結自己資本比率の推移＞



財務面の特徴（24年度）

- 健全性・成長性・収益性ともに、十分な水準を維持しております。
- 今後も、各経営指標の向上を目指してまいります。

健全性

有価証券評価益(連結)

当行実績：1,784億円
地銀平均：526億円

不良債権比率 (金融再生法)

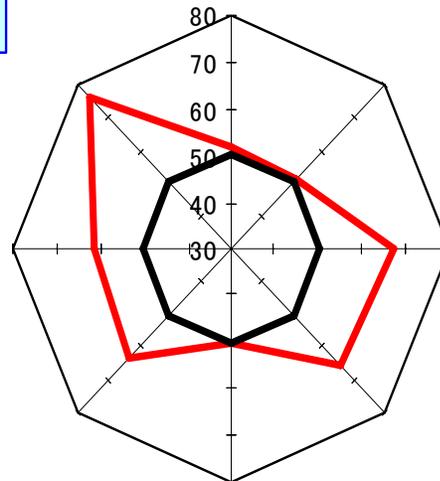
当行実績：2.18%
地銀平均：3.04%

ROA (コア業務純益/総資産)

当行実績：0.62%
地銀平均：0.41%

預金等平残増加率(過去3年)

当行実績：11.24%
地銀平均：10.14%



ROE

当行実績：4.29%
地銀平均：4.17%

収益性

成長性

貸出金平残増加率(過去3年)

当行実績：6.20%
地銀平均：5.46%

コア業務粗利益増加率(過去3年)

当行実績：4.95%
地銀平均：▲3.79%

OHR (経費/コア業務粗利益)

当行実績：56.27%
地銀平均：70.31%

〈地銀平均に対する偏差値〉

— 地銀平均=50
— 当行

25年度の利益予想

- 25年度の「コア業務純益」は360億円（前年度比△10億円）、
「当期純利益」は185億円（前年度比+3億円）を見込んでおります。

●25年度(単体)業績予想

(単位:億円)

	24年度年間実績		25年度年間予想			
	中間期実績		中間期予想	前年同期比		前年度比
コア業務粗利益	422	846	431	+ 9	840	△ 6
うち資金利益	391	781	398	+ 7	773	△ 8
うち役務等利益	25	50	27	+ 2	54	+ 4
経費	242	476	246	+ 4	482	+ 6
コア業務純益	179	370	185	+ 6	360	△ 10
信用コスト	46	75	74	+ 28	102	+ 27
経常利益	103	296	150	+ 47	300	+ 4
当期(中間)純利益	62	182	95	+ 33	185	+ 3
経常収益	528	1,048	535	+ 7	1,025	△ 23



伊予銀行

今後の経営の方向性について

2012年度

中期経営計画

～持続的成長力を備えた中四国No.1の
ソリューション・バンクへの変革～

(平成24年4月～27年3月)

中期経営計画の体系



- お客様のあらゆるステージで、最適の金融サービス、ソリューションをご提案し、
「親切で頼りがいあるベストパートナーバンク」として、「10年後も必要とされる銀行」
を目指します。

目指す
銀行像

親切で頼りがいある
ベストパートナーバンク

中長期的に
目指す財務成果

時価総額 地銀トップ5

～持続的成長力を備えた中四国No.1のソリューション・バンクへの変革～
合言葉：お客さまからの「ありがとう」のために

お客さまの価値
(事業価値・生活価値) 向上への約束

持続的成長力
(収益性、生産性、健全性)

<基本方針①>
お客さまに応じた最高の
ソリューションの提供

<基本方針②>
卓越した
経営管理態勢の構築

<基本方針③>
地域社会との長期的な
Win-Win関係の構築

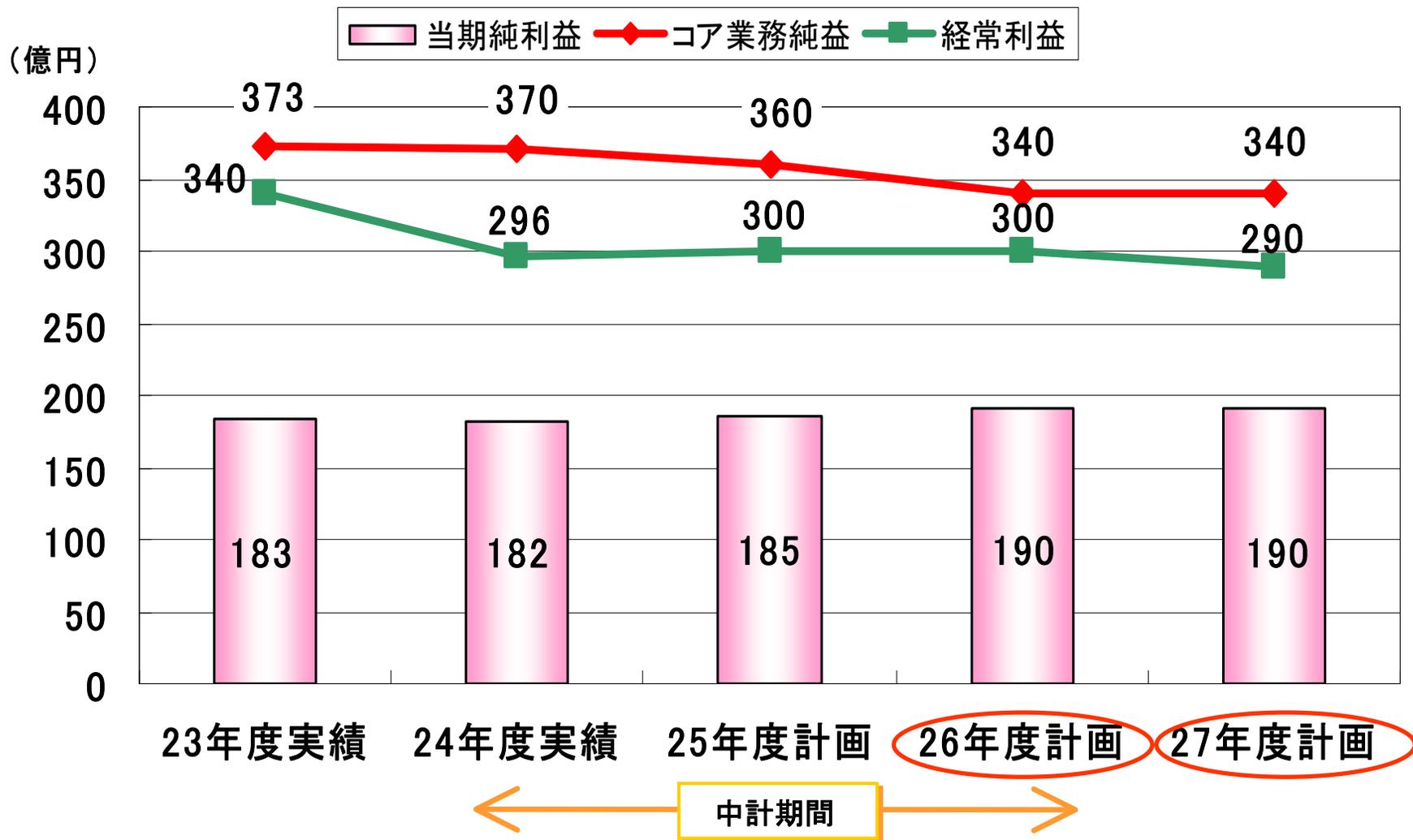
<変革のための基盤>
組織体質の変革 ～10年後を見据えた基盤づくり～

CSのさらなる向上

ESのさらなる向上

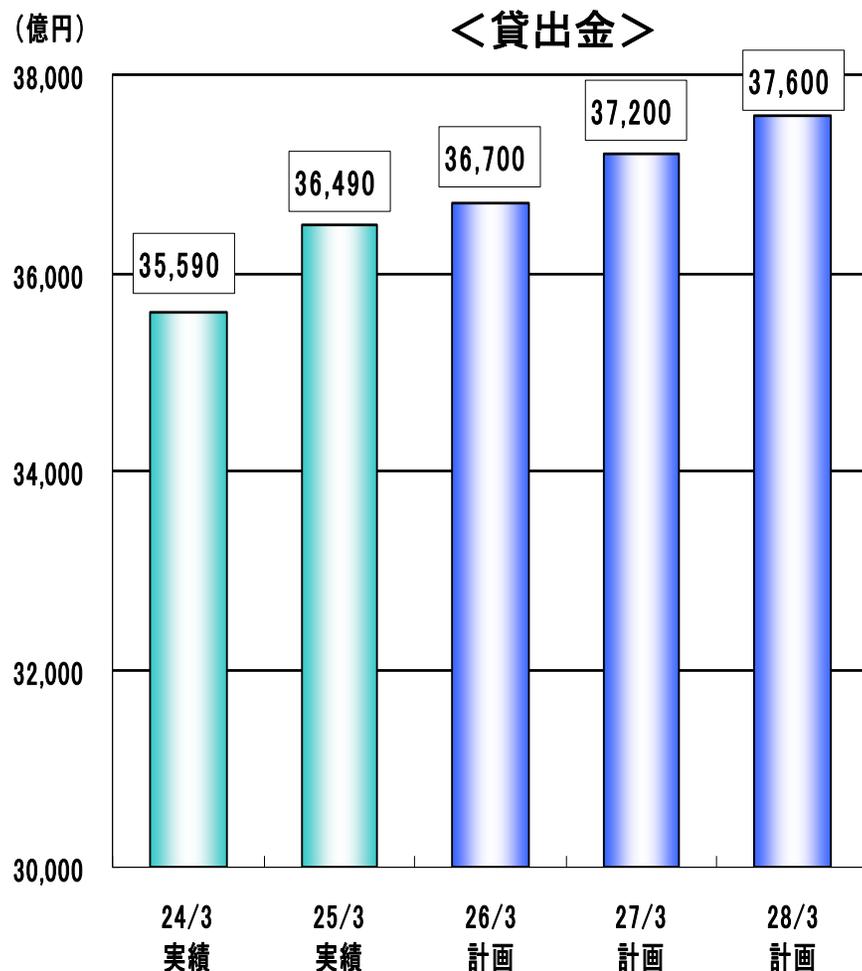
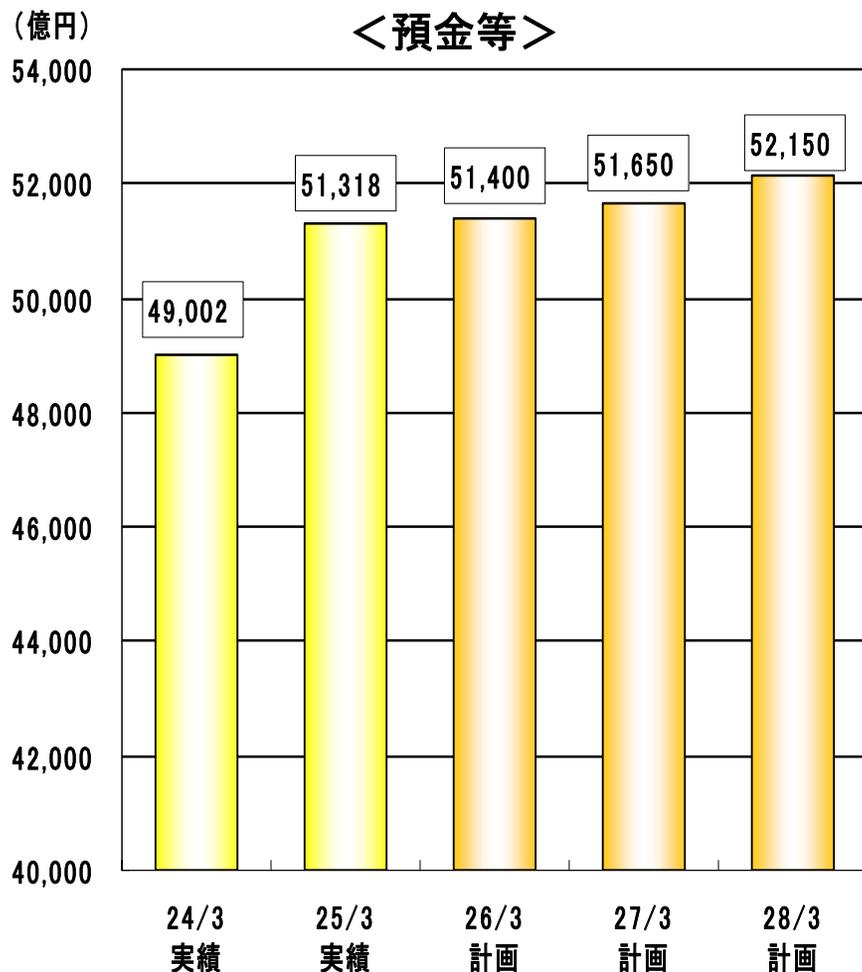
中期経営計画の数値目標（収益）

● 26年度、27年度ともに、コア業務純益340億円、当期純利益190億円を目指します。



中期経営計画の数値目標（預金等・貸出金）

● 預金等は、28年3月末残高5兆2,150億円、貸出金は、28年3月末残高3兆7,600億円を計画し、**19年連続での増加**を目指してまいります。





企業のライフサイクルに応じたソリューション提供力の強化

● お客様の成長段階に応じたソリューションメニューを提供し、お客様の成長・発展をサポートしてまいります。

ビジネスマッチング・各種商談会

ものづくり支援

研究機関、大学、大手企業など産官学連携を推進
メーカーOBを中心とした専門家がきめ細かく対応

企業成長支援室

創業・起業期のお客様をご支援

いよぎん みらい起業塾

- ✓ 定期的にセミナー・講義を開催
- ✓ 起業に必要な知識、資金調達手段、地域支援機関の活用方法をご案内

成長産業化支援室

医療・介護

事業相談から、事業計画シミュレーションの策定までサポート

環境・エネルギー

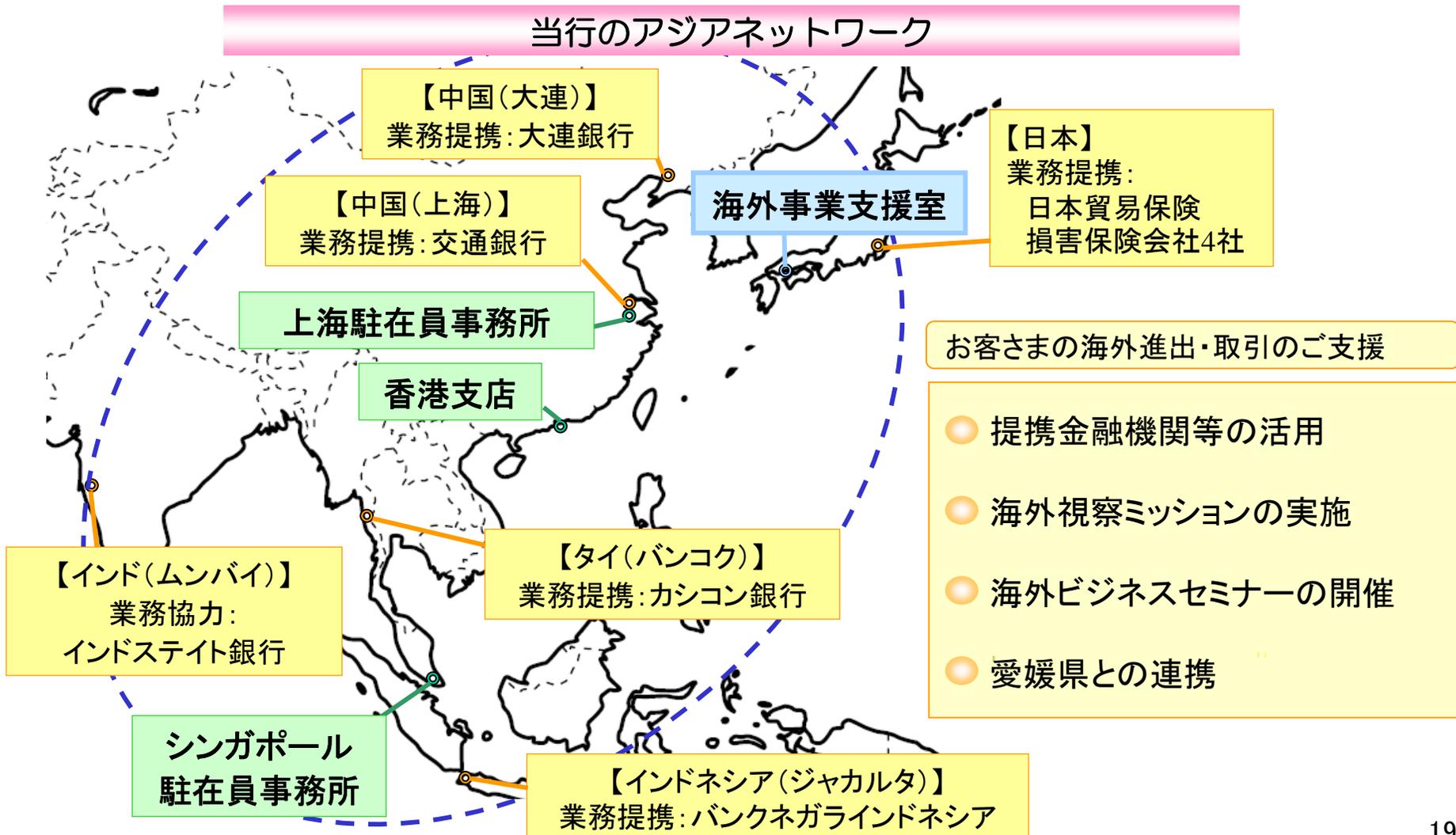
自然エネルギーの事業化、環境配慮型企業の実現をサポート

一次産業

- ✓ 「農林漁業成長産業化ファンド」の組成
- ✓ 野村アグリプランニング & アドバイザリー(株)とアドバイザリー契約締結

アジアの成長を取り込む国際化サポート

- 上海・香港・シンガポールのアジア3拠点と「海外事業支援室」が連携し、地域やお客さまの国際化をコーディネートいたします。



- 24年10月に証券子会社「**いよぎん証券**」を開業いたしました。
- **伊予銀行グループが一体**となって、お客様の資産運用を総合的にお手伝いいたします。

いよぎん証券

- 専門スタッフによる細かなサービスと高度な運用ソリューションを提供
- お客様のニーズに合った商品をお選びいただけるよう幅広くラインナップ
- NISA対応として人員を増強



少額投資非課税制度（愛称NISA）

- 口座申込みに際する住民票の取得を当行が代行
- インターネットでの仮申込み
- NISAに対応した投信ファンドの導入

教育資金一括贈与の非課税制度

- 教育資金一括贈与預金「**いよのかけ橋**」非課税制度をご活用いただくための専用口座として、6月末より発売開始

教育資金一括贈与の非課税制度は、一定の条件のもとで、教育資金を贈与する場合に、受贈者お1人につき1,500万円を限度として非課税となる制度です。

地域経済活性化サポートの拡充

- 地公体と「**地域経済の持続的な発展に向けた連携・協力協定**」を順次締結し、地域経済活性化に向けた連携を強化しております。
- 地域経済活性化策を立案・推進する専門部署として「**地域経済活性化連携室**」を設置しております。

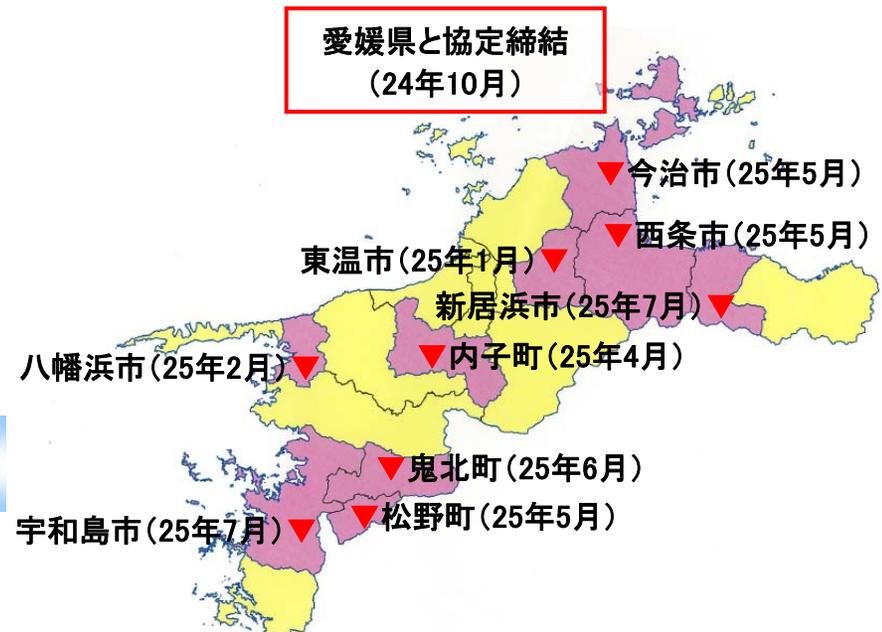
「地域経済の持続的な発展に向けた連携・協力協定」

- 連携・協力事項
 - ✓ 海外支店等を活用した海外展開および国際交流
 - ✓ 県産品の販路開拓、販売促進
 - ✓ 企業間および産業間のビジネスマッチング
 - ✓ 愛媛ブランドの魅力向上と発信
 - ✓ 県内における創業・起業および企業力向上
 - ✓ 企業の県内誘致、留置
 - ✓ 観光振興
 - ✓ 地域を担う産業人材の育成と雇用の確保

地域経済活性化連携室の設置（25年4月）

- 県内全域を積極的に訪問し、地公体と連携を取りながら地域経済活性化策を立案・推進

連携・協力協定の締結実績



店舗について

- 「インターネット支店」開設
- 「いよぎん保険プラザ今治」開設

商品・サービスについて

- 教育資金一括贈与預金「いよのかけ橋」
- 少額投資非課税制度(愛称NISA)
- まるごと住宅ローンワイド7大疾病保障付プラン
- 住宅応援フリーローン

行政との連携・ビジネスマッチングについて

- 愛媛県・県内各市町との連携
- 国内外で多数の商談会開催

CSR活動について

- 伊予銀行社会福祉基金
- 地域文化活動助成制度
- 「いーYO!なんYO!きなはいYO!」 開催
- 伊予銀行環境基金「エバーグリーン」
- 「森のあるまちづくり」活動
- エコノミクス甲子園「愛媛大会」
- IRCニュー・リーダー・セミナー
- 「全日本女子硬式野球選手権大会」
- 「愛媛FC」応援イベント

株主の皆さまへの利益還元

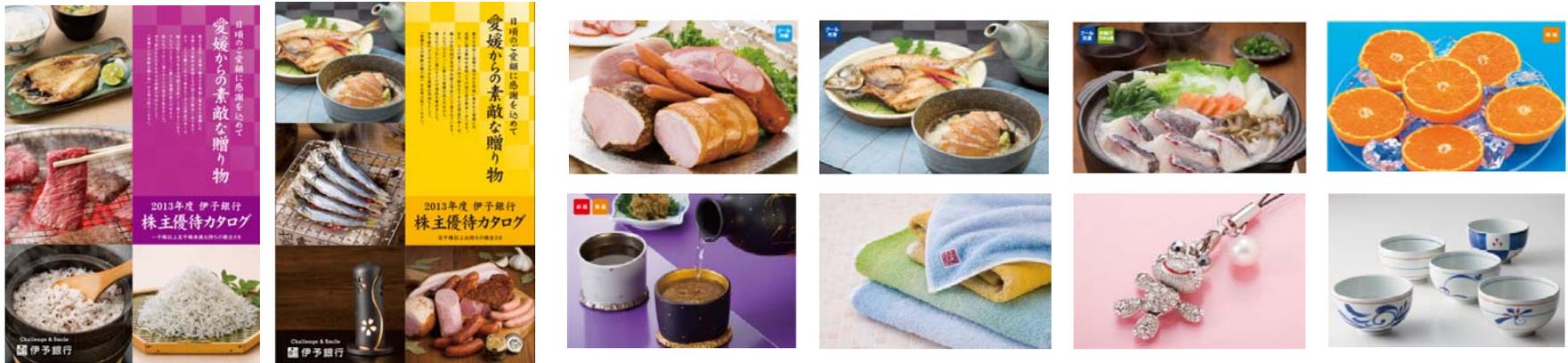
- 25年度の年間配当は、**普通配当として10円を予定**しております。
- 伊予銀行では、23年度より「**株主さまご優待制度**」を導入しております。

株主さまご優待制度

3つのうちいずれか1つをお選びいただけます

◆愛媛県産品

愛媛県産品を集めたカタログからお好みの商品を選択



- 毎年、カタログ掲載商品を拡充しております。本年度も29品の県産品を追加いたしました。

◆株主さまご優待定期預金 スーパー定期1年物の店頭表示利率+年0.50%

◆寄付 「日本赤十字社」への寄付

夢の大きさや年齢に関係なく、

何かに向かって挑戦する。

その楽しさや素晴らしさは

私にとってかけがえのないことです。

たとえば、私の挑戦する姿に

笑顔になつてくれる人たちがいたら

夢に向かって

挑戦。

それが笑顔に

つながるから。

それは、また私の糧となり

次の挑戦へと導いてくれます。

この挑戦をやめないことは

笑顔で私を応援してくださる

皆さんへの恩返しなのです。

これからも私は挑戦し続けます。



感謝の心をこめて

**Challenge
&
Smile**

私たちはチャレンジします。みなさまの笑顔のために。

 **伊予銀行**

本資料における、将来の業績につきましては、発表時において入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定を前提としております。

将来の業績は、経営環境の変化等により異なる可能性があることにご留意ください。



伊予銀行

参考資料

各種株価指標

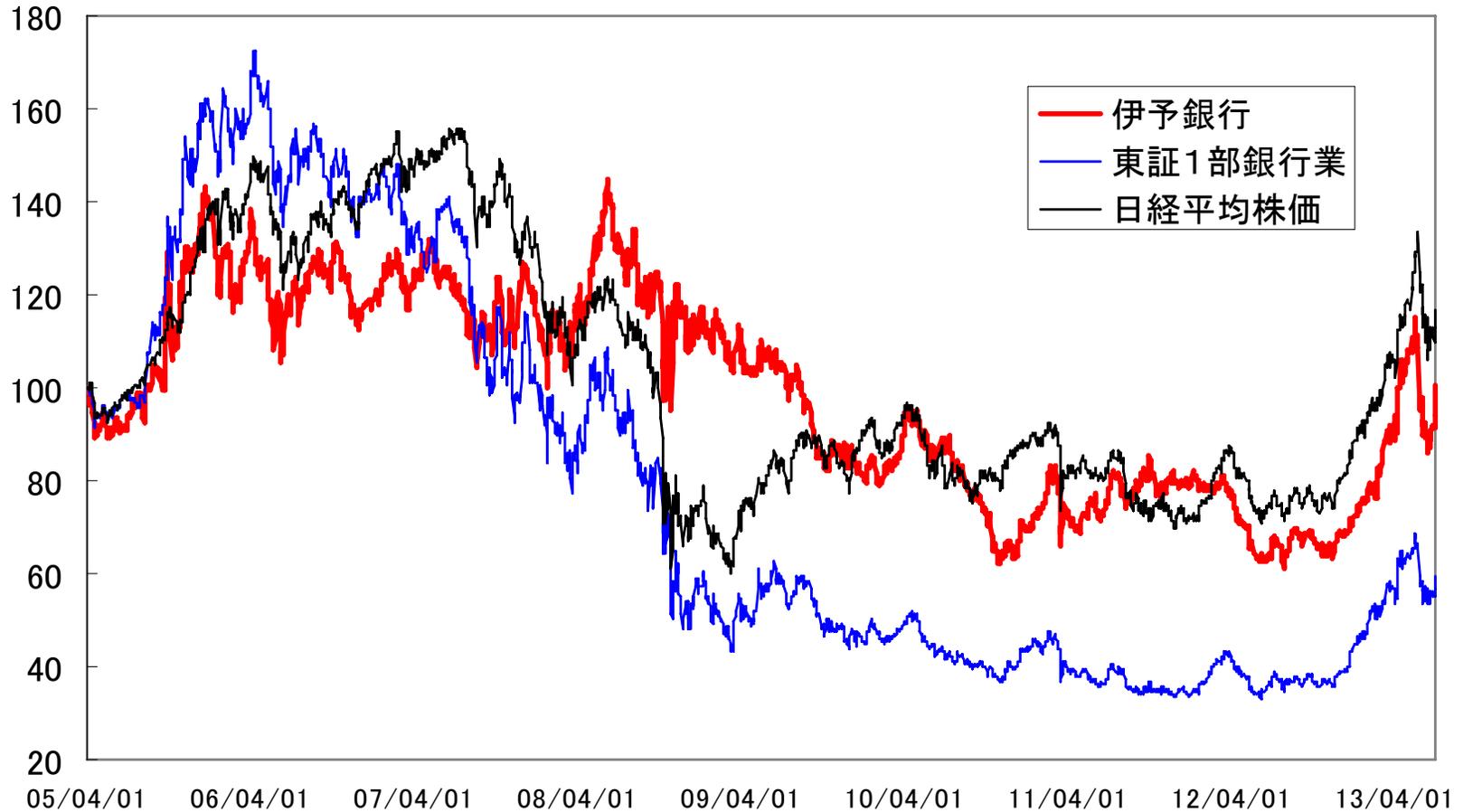


(平成25年6月28日現在)

株価	948円
配当利回り（実績）	1.05%
1株配当（実績）	10.0円
PER（実績）	16.53倍（連結）
PBR（実績）	0.65倍（連結）
1株あたり純資産	1,448.56円（25/3）
1株あたり利益	57.35円（25/3）
時価総額（発行済み株式総数ベース）	3,069億円

	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年6月28日 までの実績
年初来高値	1,102円	897円	903円	804円	773円	1,088円
年初来安値	754円	585円	577円	624円	577円	683円
配当実績（年度）	8.0円	8.0円	8.0円	9.0円	10.0円	10.0円 （年間予想）

当行株価パフォーマンス



日経平均株価、東証1部銀行業株価、伊予銀行株価推移グラフ(2005年4/1～2013年6/28。2005年4月1日を100として指数化)

(※ 東証1部銀行業株価は、東証1部上場の銀行銘柄全ての時価総額加重平均指数)

当行株価の推移

